ＱＲコードを読み取り、ホームページを見ることができます。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和３年度　附属小学校だより

スマイルふぞく

第１０号　令和４年１月２１日（金）　校長　古野　祐一

今年は「壬寅」！

才能や運気が芽吹き，新しい成長が期待できるという「壬寅」（みずのえとら）の年が始まりました。オミクロン株が猛威を振るっていますが，感染対策等の継続で，落ち着く時が必ず来るということも経験で分かってきました。また光が差し込む時までぐっと我慢しつつも，着実に力を蓄え一気に芽吹く子どもたちのスマイルを楽しみに皆で乗り越えていきましょう。本年も御支援御協力の程よろしくお願いいたします。

新春の始まりに給食調理員の村下さんが，北斗の子の活躍を願って豪華な切り絵を作成してくれました。大切な節目毎に作ってもらった作品はランチルームに飾っています。機会あるときにぜひ御覧ください。

新春にふさわしい構図で元気一杯。

真ん中の竜は北斗の子のイメージ。

「二つの笑顔」が大好きな附属小！

附属小学校の教員は，朝から夕方まで北斗の子に全力で関わります。子どもたちが帰った後，今日一日の出来事を振り返り，よし明日はこうしようと考え準備をします。そんな時に考えるのは「二つの笑顔」のことです。「よーし，授業でこれを見せたらみんなが悩みながらも解決して，きっと笑顔になるぞ」などと目の前で見られる笑顔を，わくわくして想像します。附属教員は北斗の子のとびきりスマイルが大好きだからです。

これが一つ目の「目の前の笑顔」です。スマイル附属の欠かせない願いの一つ，「思いや願いが溢れ，思わずこぼれる笑顔」がこれです。

ですが，時には笑顔と正反対になるときもあります。叱ったり悲しい顔で注意したりするのも我々の役目です。この時，目の前の笑顔は，これっぽっちも見られません。先々に，今叱られ注意されたことが役に立ち，笑顔になってほしいということを願う時です。

これが二つ目の「未来の笑顔」です。目の前の事に夢中になっている成長途上の頃は，本当に大切なことは意外と受け止めきれないことがあると経験から理解できます。ですが親や教師が伝えたことは，いつか解凍される時を待って心のどこかに留まり続けることも経験から実感しています。笑顔あり，悲しい顔あり，様々あるから附属小学校に来る意味があります。

２学期が終わるのは３月２４日です。６年生は３月１６日。学校に来る日は４０日間，６年生は３６日間です。残りの日々も皆で楽しみ，更に元気なスマイル附属にしていきましょう。

春の桜舞うなか、竜が駆け登ります。

昨年の新年版です。颯爽と走る宝船。

※裏面に続きます！

ノーミスのままじゃ，ノーポイント

ダウンタウンの松本人志さんが務めていたラジオ番組「放送室」。その放送内で，「ほめられたい，すべりたくない」と自分自身の本音を赤裸々に話されていました。そんな中，思わず語気を荒げて次のような話をされたのです。

若手時代は少々ミスをしても，流してもらえた。しかし，芸能界でのし上がってしまった俺は，ちょっとしたミスやすべりも世間からつっこまれてしまう。そんな状況に嫌気が差してねぇ。

じっと動かなければ，ミスなしでいることは可能。その代わりポイントだって入らないけどね。

ノーミスのままじゃ，ノーポイント！

動かなければ，ミスなしでいることは可能です。その代わり成長もないということなのです。松本さんの考えは，スマイル附属が掲げる「一歩前へ！何度も挑戦！！」に通じるのではないでしょうか。

教頭　松永　知大

ふと…

長崎駅周辺が急速に発展し続けている中で，2022 年を迎えました。今年は，秋ごろに新幹線が開業します。新たな可能性を楽しみにしているとともに，新幹線のことを思い浮かべながら，ふと次のようなことを考えてしまいました。

それは，新幹線の座席は２席の列と３席の列に分かれ，誰もが旅を楽しめるようにしているということです。

２席・４席の列でも，３席・４席の列でもなく２席・３席の列にすることで，２人組の旅であっても５人組の旅であっても近くに座ることができ，楽しく過ごすことができるように工夫されているのです。

さて，2022 年，私は，改めて「全ての子どもが楽しく，そして，一人一人の力を最大限に伸ばすことができるような環境をつくろう。」と決意したところです。微力ながら頑張ります。今年もよろしくお願いいたします。

主幹教諭　池田　一幸

聴き上手

毎朝，通勤の車内で FM ラジオを聴くのが日課です。東京 FM の「クロノス」から始まり，今は「ONE MORNING」。時事やトレンドを知れたり，懐かしい曲から元気をもらったりと欠かせない朝のルーティーンです。

長年聴いていると共通して言えることがあります。それは，パーソナリティが「聴き上手」であることです。どのパーソナリティもリスナーのメッセージに寄り添い，そのメッセージを基に番組を進行しています。そこには，直接会ったことがなくても，自分の事を受け止めてくれるという信頼があります。信頼があるから安心してメッセージを寄せることができるのでしょう。

子どもとの関係でも同じことが言えそうです。大人にとっては些細な事でも，子どもにとっては大切な事です。真摯に耳を傾け共感することで，また信頼して話に来てくれます。子どもの話が集まる聴き上手な大人を目指したいものです。

教務主任　橋田　晶拓